

## 仲間たちとの集合場所は 松戸市内の体育館

高校ではバレーボールに打ち込み、大学でもサークルに入っていた奈央子さん。サークルで知りあった夫や仲間たちと、バレーボールを楽しんでいる。「都内よりも松戸市内の体育館の利用料がお手ごろなので、良く使っています。いつもはだいたい20名ぐらい集まりますね。『和名ヶ谷スポーツセンター』は、施設がきれいなのでお気に入りです。そして練習の後は、松戸駅周辺で呑む笑。居酒屋『伊呂波(いろは)』さんで打ち上げがお決まりのコース。近くにあるカレーつけ麺が美味しいラーメン屋『魔乃菓(まのす)』さんに行くこともありますね」

## まつど暮らしに欠かせない 行きつけのお店

「あ、ちなみに、新松戸の『高橋水産』や『二天一流(にてんいちりゅう)』も、美味しくておすすめですよと、次々にお店の名前が出てくる。それもそのはず、奈央子さんの趣味は美味しいものを食べて呑むことで、愛読書は『dancyu』。焼酎と日本酒が好きで、都内の店にも詳しく、たまに一人

呑みもする。「コロナ禍の今は、気軽に集まって外食することができないので、宅呑みを楽しんでいます。新松戸はスーパーがたくさんあって、日常の買い物には困らないですね。遅くまで開いているお店もあるので助かります。また、自宅のすぐ近くに、パン屋『サフラン』があるのが嬉しい。夫は新潟の魚が豊富な『角上魚類』に通っていますね(笑)。あとは週末にドライブがてら、新三郷や柏駅周辺に行ったときに、洋服や家具を見つつ、美味しそうなお店を仕入れていますね(笑)。自宅が近いし、色々な店がまとまっているので、買い物も楽しい。『コストコ』は友達家族と一緒に行って、シェアしています。最近、食材だけじゃなくて器も気になり始めました。素敵な器に料理をのせると、お店みたいになりますよ。路地裏を歩きながら、セレクトショップを探したりしています」

## こだわりなく 住み始めたけれど

すっかりまつど暮らしを満喫しているように感じられる奈央子さん。結婚後に松戸駅の近くに4年ほど住んでいたが、「夫が、一度は都民になりたいと言っているので、江東区に引越しました。夫

がっているので便利ですし」

## 自分の暮らしが、 歴史や伝統のそばにあること

まつど暮らしを始めてから、一番印象に残っていることを教えてもらった。「東京に住んでいる友達が、自宅に遊びに来てくれたことです。そのときは、少し足を延ばして流山市にある『かごや商店』さんで『流山本みりん』を買ったり、レトロな街並みを散策していて見つけた雰囲気の良いなぎ屋さんに入ったりしました。友達が遊びに来てくれると、張り切って案内したくなっちゃいます。

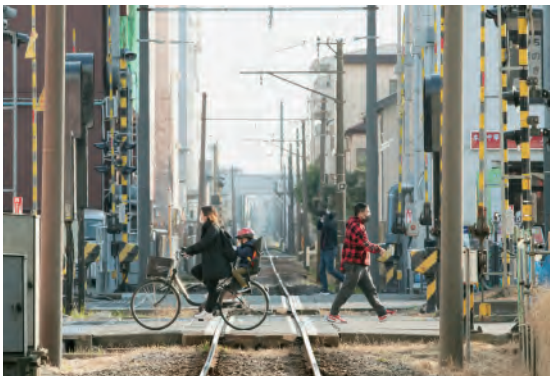
## オンとオフの切り替えを 自分なりに楽しむ

平日は文字どおり朝から晩まで、ディレクターの仕事をしている。「大好きな仕事だから、がんばれる」そうだが、どうやってリフレッシュしているのか聞いてみると、「ずっと座っている仕事で運動不足が気になるので、ランニングをしたり銭湯に行ったりします。ランニングは、目標5キロ。江戸川に架かる流山橋まで走って、埼玉にタッチして折り返す。帰りにスーパーで買い物を買います。これからはいつものコースにある桜が咲くので楽しみです。銭湯は、都内に通勤している夫と待ち合わせて行くことが多いです。三郷や野田の方に行くことも。温泉もありますが、サウナ大好きなんです」

## 見つけた私の景色 まだまだ未知のまじ

奈央子さんは、チャンスがあれば

木更津でキャンプや、金谷港で海釣りをするなどアクティブ派だが、地元で過ごす時間が増えたことで好きな風景が見つかったそう。小金城趾駅の近くにある『横須賀中央公園』に広がる緑。三郷ジャンクシヨンのあたりから見える工場群。流鉄流山線の踏切を渡りながら見る線路や、小金城趾駅近くの歩道橋の真ん中から眺める遠くの景色…。たくさんありますね。あと、松戸には意外と住宅街とともに、こだわりのお店が埋まっています。これからどんどん発掘していきたいです」



は、生粋の松戸っ子なので、気持ちがわからなくもないなど。そして、義妹が結婚して実家を出て義母が一人暮らしになるタイミングで、新松戸で二世帯同居することになりました。私は12歳のころに埼玉県浦和に落ち着くまで、親の転勤で各地を転々としていたので、新しい環境に入ること慣れていくというか、こだわりがないというか。あまり構えることなく松戸にも新松戸にも住み始めたんですが、居心地がいいと感じています。駅前には賑やかですが、少し離れると住宅街の落ち着いた雰囲気が良いですね。新松戸駅を利用すれば、武蔵野線で私の実家の最寄り駅ともつな

